

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 2月 28日

事業所名: きらり中庄(児童発達支援)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・個別エリアでは職員と子どもが1対1で関われるように配慮している。 ・重症児クラスでは人数が多くなる時間帯は、スペースを確保して安全に配慮している。	・「狭い」と感じる場合がある。環境を見直し、他の教室も活用する。整理整頓を行う。
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもたちの要求に応じることができる。 ・開所時間を調整し、適切な職員配置を行っている。	・利用児の特性や状況によっては、職員数が少ないと感じる場合がある。職員配置は十分なため、出勤状況を調整する。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・遊びの種類に応じて場を分けている。 ・重症児クラスでは、必要以上の構造化を行っていない。個別に集中しやすく仕切りを立てたり、視覚的な支援を用いたりしている。 ・個に応じた配慮をその都度検討している。 ・遊びの場と飲食の場を分けている。	・配慮している。しかし重症児に対して十分な配慮が、すべての環境においてできているわけではない。身体機能に応じた器具なども用いて、様々な伝達手段を引きだしたい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・食事スペースと遊びの場所を分け、清潔を保っている。 ・破損や汚れをチェックして改善している。 ・口に入れたり投げたりすることも予測しながら環境を整えている。 ・身体の変形や拘縮がある場合は、クッションなどを用いて姿勢を補助している。 ・清掃や消毒は、ルールも決めて実施している。	・ゴミが目立つこともあるので、気づいたときに取り除く。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・法人内で業務評価目標管理活動を実施している。個々の職員が自らの業務の改善活動を実施している。管理者との面談も行いながら振り返りを行っている。 ・職員間の気づきや、保護者からのご意見に対して囁託職員も含めて都度話し合い場を設けている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・受け入れや引継ぎ時、連絡帳を通じて保護者の意向を把握している。 ・昨年に引き続き実施している。 ・意見箱の設置、茶話会の開催など、言いやすい場づくりを目指している。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・市のHP,法人HPで公表している。 ・毎月発行する通信にも記載している。	

適切な支援の提供	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・3年に一度、第三者評価を受信している。 ・改善すべき点は、管理者を中心にできるだけ迅速に解決している。 	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・研修に参加できるような時程、職員配置をしている。 ・月に1回の研修実施や、外部の講演会の案内なども実施している。 ・センターと一緒に研修を行ったり、重症児についての研修会などで学んだことも共有している。 	・嘱託職員に対する研修機会が少ない。研修参加も勤務ととらえ、機会を提供する。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・本人の姿、家庭、園、事業所と多方面からとらえて考えている。 ・児発管と話し合いながら保護者のニーズ、子どもの課題や要望を支援計画に入れている。 ・アセスメントした情報をもとに、支援計画会議を経て支援計画を作成している。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の児童発達支援において共通しているアセスメントツールを用いて、子どもの状況を把握している。 	・主たる対象が重症心身障害児の支援において、より良いアセスメントツールを検討する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの現状や保護者の考え、園での様子を踏まえた計画を立案している。 ・家族支援も計画に入れているが、事業所の活動を中心に行っている場合は項目に入っていない。しかし支援している。 ・子どもの状況に応じて、適切な目標を児発管や職員と話し合いながら設定している。 ・利用児が地域で活動する場を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族支援や地域支援については、同じ内容の継続になりやすい。個別性を高めるためにも、より詳細なアセスメントを行いたい。 ・個々のお子さんに必要な地域支援とは何かを考え、支援計画に取り入れたい。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳に支援計画を載せることで、意識して支援できる。 ・支援計画に基づいて活動を立案し連絡帳に記入して保護者に伝達している。 	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> ・担当が中心となり立案し、チームで話し合ってから決定後、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム全体で立案できるように話し合いを行う。 ・より良い活動プログラムにするために、互いに意見を伝える関係性を作る。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊びの経験ができるように月ごとに活動を立案している。 ・過去のプログラムを参考にしながら見直し、新しい活動を取り入れている。 ・似た内容にならない様に確認している。 ・季節活動、感覚を重視する活動など、取り入れている。 	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		<ul style="list-style-type: none"> ・児の必要性に応じて、個別と集団の活動を組み合わせている。 	

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		個々で声掛けを行い、運営ボードに情報を記入し共有している。	・朝礼として全体でも確認する。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・毎日、全職員で終礼を行い、気づきを共有している。 ・特記など共有すべきことは、口頭と書面で共有している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・児童記録(会議録)に記入し、不在職員にも伝えている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・支援計画会議を毎月実施して振り返りを行っている。 ・支援計画の評価時に見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・担当の職員や児発管が参加できるようにしている。 ・参加しなかった職員(囁託職員も含め)にも周知している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・地域の保健師さんから情報を得ている。 ・市の検診保育に出向いている。 ・並行通園している園や事業所や、相談支援員と情報を共有し支援している。	家庭環境の面で支援が必要な家庭については、地域の児童委員や愛育委員などと協同して支援したい。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		・訪問看護や訪問リハ等と情報を共有している場合もある。しかし保護者からの聞き取りも場合もある。	地域の保健師などと情報共有できるように、こちらから情報提供するなどの関りも検討したい。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		・主治医を訪問し、指示書の内容を確認している。	必要な時にスムーズに連携が取れるように、普段からの関りや訪問を継続したい。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・就園する子の状況を書面でまとめ、先方へ伝えている。 ・状況表を用いて、引継ぎを行っている。	並行通園や利用している園や事業所へ今後も訪問を行いたい。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・就学する子の小学校へ出向き、引継ぎを行っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・法人内で連携している。 ・重症児支援については、県内の専門施設で実施される研修へ参加している。	・囁託職員も研修を受ける機会を設ける。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		・一時的な行事等で、参加されたお子さん同士は、交流できる場を設けている。	・外部の園と交流する機会を設けたい。 ・機会や、違った形での機会を提供する。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・管理者が中心的に参加している。	管理者が参加した場合は、内容を職員へ周知する。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・毎回、保護者と話す機会を設けている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・重症児以外のお子さんの保護者は、法人内で協働実施しているペアトレに参加される保護者もいる。	・重症児の保護者が求めている家族支援プログラムを見つけ出したい。
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に詳細を説明している。 ・必要に応じて懇談時や通信でもお知らせしている。	
	㉝	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・計画を評価し更新する際に、保護者へ具体的な例を出し説明を行っている。 ・保護者の意向も聞き取りながら同意を得られるように努めている。	
	㉞	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・職員同士連携し、助言を行っている。 ・半年に1回、保護者面談を行っている。	

保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・茶話会や親睦会を実施している。 ・法人内の事業所が実施する おやじの会の案内を行っている。	今後も職員が実施する茶話会や勉強会、イベントなどで保護者同士が交流できる機会を提供する。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・保護者と日程を調整し話を聞くなどの対応を行っている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月「通信」を発行して配布している。 ・法人のHPブログで活動報告を行っている。 ・法人発行の広報誌でも情報を発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・ケースファイルや記録は、鍵が掛った書庫で保管している。	すべての個人情報を鍵付きの書庫に保管したり、人の目に触れないよう配慮したり改善する。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・書面や口頭で保護者の意向を聞き取っている。 ・子どもの意思も言葉以外の表出にも気を配り把握している。 ・手足の動きや視線、表情で確認している	・視線入力ソフトやスイッチ、お子さんの身体機能や発達に適した機器の導入も検討する。 ・保護者やお子さんの状況に配慮した情報伝達を心がける。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		・法人内で協働し実施している。 ・行事を開催し、地域へも案内している。	・事業所内に地域住民を招待できる機会を検討する。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・マニュアルを策定している。 ・重症児クラスでは、個別の緊急時対応を毎朝、確認している。	具体的な緊急時や災害、防犯、感染を想定した訓練や話し合いを行う。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		・毎月、避難訓練を実施している。 ・重症児クラスでは、具体的な緊急時を想定し訓練を実施している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・毎年度ごと、書面を用いて確認している。 ・見学時に、症状などは聞き取っている。しかし具体的な症状や対応は、初回の利用日に提出される主治医の指示書で確認している。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・主治医の判断を書面でいただき、保護者と管理栄養士の面談を設けている。 ・弁当を持参している子もいる。	
	④⑥	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		・ヒヤリハット報告書を職員間で共有している。 ・毎月の通信に、ヒヤリや事故状況を伝え、改善策を提示し保護者へ開示している。	
	④⑦	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・事業所の閉所日に、虐待防止の研修を実施している。	研修を欠席した職員にも研修内容を周知する。研修以外にも、虐待について話し合い、互いに適切な対応ができるように心がける。
	④⑧	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・行う必要がある場合は、事業所内や保護者と話し合う。保護者の合意が得られれば、支援計画にも記載し実施する。実施内容は記録を残し、保護者にも報告する。 ・重症児支援においては、できるだけ身体拘束を行わないよう職員間で話し合いを行っている。	拘束されているお子さんの心情を想像し、できる限り拘束せず安全を確保する方法を今後も検討する。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。